

第2回 佐倉市幼保小架け橋プログラム推進事業検討会 会議録

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日時   | 令和8年3月6日（金）午後2時30分から午後3時40分                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 場所   | 1号館 3階 会議室                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 出席者  | <p>○出席委員</p> <p>神永 直美委員、藤代 明委員、楠川 栄治委員、伊豆永 千代委員、<br/>松木 幸恵委員、佐藤 静善委員、松本 エリ子委員、飯田 鑛平委員、<br/>辻口 美佐枝委員、飯野 千里委員、宮崎 由美子委員、山本 健太委員</p> <p>○事務局</p> <p>田中 健治副主幹、小林 弘典主査補、菅野 優里香主事、<br/>ダドバンド 成美副主幹、栗下 歩主任保育士、藤崎 裕之主幹（室長）<br/>小高 純主査補、松原 和弘主幹、山本 みゆき指導主事</p> <p>○オブザーバー</p> <p>千葉県総合教育センター 齊藤 典子研究指導主事、藤岡 夏基研究指導主事</p> |
| 傍聴   | 1人                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 配付資料 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第</li> <li>・ 資料1            架け橋カリキュラムを作成に係る感想（連携協定締結園・校より）</li> <li>・ 資料2            成果と課題（連携協定締結園・校より）</li> <li>・ 資料3            「佐倉市架け橋カリキュラム作成の手引き」（案）</li> <li>・ 資料4            幼保小の組み合わせ一覧</li> <li>・ 資料5            令和8年度予定</li> </ul>                         |
| 議事   | <p>①「佐倉市架け橋カリキュラム作成の手引き」（案）について</p> <p>②市内幼保小の組み合わせについて</p> <p>③次年度の取組について</p>                                                                                                                                                                                                                                 |

以下、議事内容

1 開会

2 議事

～議事① 「佐倉市架け橋カリキュラム作成の手引き」(案)について～

【会長】

それでは、次第に従いまして、進行を進めていきます。

議事の1「佐倉市架け橋カリキュラム作成の手引き」(案)について、事務局の説明をお願いいたします。

【事務局】

(資料1、2に基づいて説明)

【会長】

今までのところについて、ご質問ご意見ございましたらお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

【事務局】

事務局から1つ付け足してよろしいでしょうか。

最終的には資料3のカリキュラムの作成の手引きについて、色々のご意見いただいて、改良を加えていきたいと思っておりますが、今この資料1、資料2については各連携協定を結んでいる各園各校にいろいろな意見をいただいての分析が書かれています。

特にzoomとかTeamsとか、オンラインを行う上での課題というのが出てきました。我々も何となく情報集めてはいますが、実際のところ、園の状況はどうかとか、そういったことも我々としては知りたいところです。ぜひ、情報を教えていただければと思います。よろしくお願いします。

【会長】

今のことについて、zoomやTeamsの開催の仕方とか、いつも何を使ってらっしゃるかどうかなど、情報を上げていただければと思いますが、いかがですか。

【委員】

Teamsもzoomも大丈夫です。

【会長】

それは、どこも同じような感じで行っているのでしょうか。

【委員】

そうですね。招待をいただければ。

**【事務局】**

アカウントは皆様おもちではないですね。

**【委員】**

保育園ってことですね。

**【事務局】**

そうです。

**【委員】**

メールで zoom の URL を送っていただいて、そこから入ると思いますが、そのようにすればどこでも入れるのかなと思います。

**【委員】**

その機能は Teams にもあります。Teams も招待をかけることで、Teams のアカウントがないところにも送って、そのリンクさえ開けばアカウントがなくても、会議を行うことができます。なので、小学校側が主催することも可能だと思います。

**【事務局】**

園の皆様が Teams をもしお使いであれば、今教えていただいた方向で可能かと考えています。

**【事務局】**

普段 Teams を使っていないというような園はあるのでしょうか。

**【委員】**

うちは zoom が主です。

**【事務局】**

そういうところがおそらく多いと思ったので、慣れていなくて使いづらさもあるのかなというのは思います。小学校の方は zoom での会議を行うことはゼロではないです。ただ zoom のアカウントはもっていないです。

**【委員】**

（小学校の）主催は難しいです。

**【会長】**

オンラインの情報について大丈夫ですか。他に何か言っておきたい、こういう風にしたらちょっと不都合があるというようなことがありましたら今出していただければと思いますが、大丈夫でしょう

か。

【事務局】

どちらかは必ずあるという認識でよろしいでしょうか。

【会長】

zoom だったら大丈夫というところもあるというところですよ。

【事務局】

どちらなのか確認して把握が必要ですね。

【会長】

どうぞよろしくお願いします。他のところについて、例えば10ページの左についていかがですか。折衷案というような話がありましたけれども、1年を総括してこう変えていくというイメージですか。何月何月というように時間を追っていくというわけではなくて、1年間を総括して、5歳児と1年生で見えていくというイメージで大丈夫ですか。

【事務局】

はい。下のこどもの交流などのところでは、各月を意識していただければと思います。

【会長】

授業参観、保育参観などは、下の所に決まった時期を入れていくというような感じですかね。何となくイメージが湧いてくるのでしょうか。真ん中の5つのブロックは、どんなイメージで書いていくような感じでしょうか。

【事務局】

手引きのこの後の説明で、詳しくお話しさせていただきたいと思うのですが、10の姿を基本的には意識しています。ですが5つにまとめた関係上、この10の姿すべてに対しての指導配慮事項というよりも絞って書いていくという形にしています。

【会長】

5歳児の姿と1年生の姿の両方を書いていくという感じでしょうか。

【事務局】

そうですね。10の姿それぞれ番号をつけて書きますので、そちらで両方の活動内容を確認した上で、お互いどのような配慮が必要かということをお話し合っ、それを真ん中に入れていくという形を考えています。

**【会長】**

そのことについて何かご意見、ご質問とかございませんか。また後半の説明を聞いて、また後で戻るというようなこともあると思います。では後半部分をお願いいたします。

**【事務局】**

(資料3に基づいて説明)

**【会長】**

それでは今の説明について、ご質問、ご意見等ございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

司会の立場で申し訳ありませんが、6ページの作業2-1の遊びを選んで入れるというのは少しわかりづらいなと思ったのですが、もう1回説明していただいてもよろしいでしょうか。

**【事務局】**

この遊びを入れるというところは、12ページをご覧いただいた方がわかりやすいかもしれません。5か所遊びを入れる所を用意しましたので、選んでというのは、ここに5つあるから選んでくださいということです。内容のどの遊びというのは、それぞれの園側で考えていただければと思っているので、特にこちらが遊びを固定するわけではないと思っています。

**【会長】**

数は5個ではなくて、減ってもよいということでしょうか。

**【事務局】**

書いていただけるならと思うのですが、幼保小連携協定で実際に事前に取り組んでいただいた所から、園側で書く所が多いのではないかというご意見もあったので、あえて5つにはしてあります。小学校側は、先程もお話しさせていただいたのですが、学習の内容がある程度固定されていて、そこはあまり変更することはないと思います。園側がたくさん書く所があるので5つにしてありますが、たくさん書いていただいても別に負担が無いということでしたら、それは手引きに加えたいと思います。

**【会長】**

幼児教育施設の方々はいかがですか。イメージとしては、5歳児の1年間の遊びを5つにまとめて書くという感じでしょうか。違和感はないですか。

**【委員】**

その表現でまとめるのはちょっと難しいという気がします。

**【会長】**

活動を書くということですかね。

**【事務局】**

はい。活動を書きます。

**【会長】**

ご意見をいただければと思うのですが、いかがですか。

**【委員】**

この時期に予想される遊びを全てバランスよく網羅して入れるということになりますと、5つ程度にまとめるのはなかなか難しい所があるのではないかと思います。負担のないようにという所で、5つ程度というご提案でしたが、その他にも大事な物はいろいろあるという前提で、ここを5つにするのかどうかということは、確認したいことです。

**【会長】**

ありがとうございます。どんな風にして、それを選ぶのかということがありました。いかがですか。

**【委員】**

年間をとおして色々な生活や遊びの中で、お子さんたちが何を学んで、それを伸ばしていくかというところは、保育園の課題だと思っています。ここに書かれているように、5つに絞って、表現遊びという所が例としてうまっていて、そこがお子さんたちの幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の協同性につながっているというのは、この資料を見ると一目瞭然だと思っています。

**【会長】**

では、このような感じで大丈夫ということですかね。

遊びとは、こどもから主体的に興味関心をもったところから始まって遊びが展開していくわけですが、それが初めからこのように分類されていると、遊びのイメージとして違和感がないかなということが懸念されます。皆様が大丈夫であればよいのですが、いかがでしょうか。

**【委員】**

保育園は遊びと生活、生活と遊びの中から学ぶというところがあります。事務局の提案で、遊びで分類するということがありましたが、ここでもし分類して進めていくといった時に、次の作業3で色々話しながらやると思います。そこの中でどんな風にこの遊びを進めているとか、どんなねらいをもってということをお互いに伝え合いながらやっていくという場合、1個カリキュラムとしてあげておくことが必要で、やはり何かがあがっていないと、共通点が見付けていけないと思います。それを遊びでまとめるのか、遊びの中にプラス生活の中で学んでいくこと、経験していくことというのを入れるのかということになってくるのかもしれません。作業3の所で網羅していくというのがすごく大事なのかなと思います。会長が、1年間まとめるんですかとおっしゃっていましたが、その1年間の中で最初はやはり集まって、こういうことがあって、この時期にはこういうことがあってということ、表

の上の月に沿いながら、保育園側も説明をしていくことが大事だと考えています。それを聞いてくださる小学校側も「ああ、なるほど」と言いながら、3月に向かってこうなっていくという様子を聞いてもらって、自分の小学校の所におとしこんでもらってというような形が良いと思います。保育園側も、小学校のことを聞いた時に、自分たちの保育園の遊びや生活の参考というか、小学校でこういう風なのかなとおとしこんでいくという作業になるのかなと思いながら聞いています。1年間の中で、出しておいたものから変わっていったり、学んでいったりしたものを、年間の中でお互いにやりとりして、またわかりあって進めていくというのが、作業3に付随したそれからの交流につながっていくという感じがしました。

**【会長】**

ありがとうございました。作業3というのが、とても大切な過程になるかと思いますが、2の所であげられたことをお互いに理解しながら進んでいくという感じになろうかと思います。ということは、あえて5つの〇〇遊び、〇〇遊びっていうのも、学校ごとに頭出しを決めてもいいし、何とか遊びとするとちょっと違和感があるなというところだったらちょっと表現を変えろとか、そういうことも可能だという理解で大丈夫ですか。

**【事務局】**

私自身が勉強不足で大変申し訳ないのですが、遊びの部分のより適切な表現というのは何か教えていただけたらと思うのですが。

**【会長】**

何とか遊びはくくり方にちょっと違和感があります。こどもの興味関心から始まる遊びなので、例えば、お店屋さんごっこというのが始まったとしたらそれはじゃあどこに入れるかということになってくるので、そのお店屋さんごっこで学んだことは何だろうなというように考えて、例えば人との交流とか人間関係とかでくくっていくとか。そういうやり方の方が、こどもたちがやっていた遊びとか生活の中で学んだことを振り返ってみると、このようなくくりができるかなというのがあったら何かわかるような気がします。初めからこれは何とか遊びだといって始まるわけではないのでというようなところが了解できればいいのかなと思います。いかがでしょう。

**【事務局】**

手引きをまず作ろうと思ったのは、このカリキュラムを作るとなった時に迷ったり、カリキュラム作らなきゃいけないのは大変だと思ったり、現場が感じないようにするためにです。それで、例えばこの手引きを見てこれでは作りづらいとなってしまうと、我々としてもちょっと本意ではないです。ですので、今のこの園側の作業として、例えば今タイトルはないんですけども、この作業としては、「主な遊びの内容」というようなタイトルをつけたとすると、遊びの内容をどうやって書いたらいいのかわからないと園が捉えてしまうし、手引きとしてはわかりづらいものになってしまいます。我々も手探りで作っているところもあるので、手引きとして、こういう風に書いてくれると園として作業がしやすいというようなご意見があると非常に助かります。

**【会長】**

いかがですか。

**【委員】**

年間計画で説明を出されていますので、予想されるとか、そういう形でまず書きやすいものという形で捉えていますよね。先に出すものなので、予測されるとか、そういうこどもの姿でうめていくという形ですよね。

**【委員】**

5領域の方が、やっぱり書きやすいのかなと思います。5領域の中でそれぞれに年長が1年間、人間関係だったらこういう活動、言語だったら1年間こういう活動というように入れていくので、遊びというくりよりも、5領域に分けてやっていただいた方が、私たちはもしかしたら書きやすいのかなというのはあります。

**【委員】**

全体の計画から年間計画におとしていく時に、抽象的にはなってしまうかもしれませんが、やはりそこに沿っている方が、その予測されるこどもの姿、私たちの思い、卒園するまでにここまで育て欲しいなという願いを込めて年間計画を書くので、その方が私も書きやすいかなと思います。

**【会長】**

いかがでしょうか。5領域ということが出ましたが、流れからいうと5領域というのが、小学校側が難しいから、それを10の姿で置き換えて小学校との共通の言葉にしていこうというところがあります。またそれが5領域に戻ってしまうと、小学校との接点がなかなか難しくなってくるという感じがします。なので、ここでは多分この5領域というのを5つに分けてあって、それを例えば、健康だったら10の姿の1の健康というのをそこに入れて、5領域っぽくしてあるのではないかと思います。

**【委員】**

5領域に対しては、その園の活動を細かく書いていって、そこに10の姿をはめこむことで、わかりやすいのかなという気がします。今まで5領域という言葉だけが走っていた分、小学校との乖離がおそらくまれたと思うので、それぞれの活動にその園がどういう活動を入れて取り組んでいます、それがこういう姿のねらいですと番号を割り振ることで、小学校さんにより伝わりやすくなると思います。

**【会長】**

小学校は3つですね。学習と生活科と生活の3つというのが大きな柱ですね。

**【委員】**

大事なのは、真ん中のところを共通に理解しようということだと思います。だから左側の方は、書き



やすい、わかりやすいのでいいのかなと思います。小学校は小学校のやり方で。それで真ん中がここで合うんだよという。

**【委員】**

10の姿というのがありますけれども、これが幼児期の終了したときに、習得していることが望ましいということかと思えますけれども。

**【会長】**

真ん中のことですか。

**【委員】**

左のことです。要するに、幼稚園が終了した時に、こどもたちがこういうものを習得していることが望ましいということが一番のことで、5領域でもそうですし、幼児教育の中で幼稚園の目指す所は、正にその10の姿です。そのために、健康にしても、自立心、協同にしても、遊びの中からこういうものを引き出すには、たくさん表現遊び、発表会、ダンス、色々ありますが、そういうものもみんな含まれていますので、ことさら何とか遊びということにしないで、集団道徳性にしても何にしても、色々な遊びを通してこの分類に入っているものを、当てはめることはできますので、その方が何か変えるよりもわかりやすいです。

**【会長】**

ここの10の姿ではなくて、こちらをということですか。

**【委員】**

左の方です。

**【会長】**

何か他にございますか。

これは当てはめるというよりはここは各幼児教育施設で、左側の明記の仕方というのは考えていいということでしょうか。それともこれを当てはめていくということですか。

**【事務局】**

遊びは選んでいただいて、活動内容をそれに関係しているものを書いていただこうと考えていたんですけれども、全部選んでいただいた方がいいようであれば、ある程度方向性を決めないと手引きは作成できないというところがあります。なので、もしそのあたりもご意見をまとめていただければ、反映したいと思います。

**【委員】**

左側に求められているものは、手引きなので書きやすさとかですよね。まずは書きづらいとか、すご

く大変そうというのを思わないように、自分たちがいつもやっていることなので、割り振りというか、そういう形でということでの書きやすさというところを重視というのがまずあるということでもいいですよ。

**【事務局】**

そうですね。

**【会長】**

これで書きやすい、このやり方で大丈夫ということでしょうか。

これがそのままでいいのかということ、結論を出さなければいけないので、ここに5つあるこの何とか遊びというのに当てはめていくやり方でいいかどうかですね。

**【委員】**

保育園としてはやっぱり5領域の人間関係、言葉、表現でとか、それをもとにして色々な活動や遊びとか、生活の色々計画を立てていると思います。なので、そういう所が1年間を通して、紙で分かりやすいようになると、やっぱりそこは5領域の方がいいのかなという。人間関係だったらそこに何が入ってくるのかというところをうめた上の、幼児期までに育て欲しい姿という所が、何番と何番が繋がっていくというように記載していくと、小学校も、今後共通のお話し合いをした時には、お互いにこれがどのように学校に繋がっているかということが分かりやすいのではないかと思います。

**【委員】**

5領域でやって、その中で、例えばというのを入れていけばいいと思います。それで、こんな活動をしていて、いろんなことが育まれているということも番号で分類されていると、私もやりやすいかなという気がします。

**【会長】**

いかがですか。ここの何とか遊びと今ある所を健康、人間関係という風に頭出しするということでしょうか。

その方が書きやすいというようなことであれば、それで、やっていくという、最初にご提案いただいたものに戻るかもしれないです。

**【委員】**

遊びという風になってしまうと、私たちは保育園とこども園という立ち位置と、あとは幼稚園という立ち位置もあるので、遊びだけではないのかなというように正直私たちは思っているので、やっぱり保育の面でその生活とか保育というところもちろんです。教育というものも、やっぱりこども園としてはすごく大事にさせていただいているところなので、そこを遊びという言葉でくくってしまうとちょっと違うかなというような違和感があります。なので、どちらかというと5領域で書かせていただいた方が、その中にはやっぱり保育としての一面と、教育としての一面両方をちゃんと書き足す

ことができるのかなという風に思うところがあります。遊びだけじゃないということは、ちょっと知っていただけたらというのは思いとしてはあります。

#### 【事務局】

色々な様式を考えていく中で、生活面は学校側もちろん考えているので、園側の方でも生活というのを別枠で作ろうかと考えていたのですが、今回はこの折衷案を出させていただいています。生活面というように別の枠を設けた方がいいのか、5領域の中にその生活面を設けた方がいいのかなど、そのあたり何か教えていただけたらと思います。また、この作業3で結局は10の姿を通して、お互いの共通点というか指導配慮を考えるので、5領域の所は変えても1番とか2番とかつくもののかななど、色々教えていただけるとありがたいです。

#### 【会長】

自然遊びとか表現遊びという所を、健康、人間関係、環境、言葉、表現という風に置き換えというか、そここのところを5領域という言葉を使わないにしても、そこに入れ込んでいくようにするという、そういう意見が多いような気がしますけれどもそういう形でよろしいですか。

#### 【委員】

補足ですが、小学校低学年の体育は、マット遊び、鉄棒遊びというように単元名に遊びが入っています。言葉遊び、文字遊びとか。ただ遊びは本当に遊んでいるのではなくて、勉強の単元名で出てくるといふ。ただ小学校だから、学習というのは捉えてはいます。

#### 【会長】

ありがとうございます。皆合意が取れたということで、こここのところは何とか遊びではなくて、健康、人間関係、環境というように、領域を5つ入れるということでもよろしいですか。その中に遊びも活動も、生活面も入れ込んでいくというような形で大丈夫ですか。いかがですか。

オブザーバーからご意見がございましたらよろしくお願いします。

#### 【オブザーバー】

私の方ではカリキュラムとか進め方とか、各自治体に伺って、行っています。とにかく10の姿を目指して、どういう風に育ってきて、それがどういう風に小学校で発揮されているかを見えるようにするものなので、各自治体によってここは自由に決めていいとなっています。今色々見てみて確認をしても、5領域を載せている自治体もありますし、そうでないところもありますし、本当に形は自由ではあるかなと思います。5領域であっても、遊びであっても、進めやすい形でと思います。

#### 【オブザーバー】

各自治体さんの実態ですとか、その状況によって、カリキュラムの様式というのは縦軸で見えていたり、横軸で見えていたり、あとは記載する事項も全く違っているというのが現状で、やはり今のこういう風に話し合っ、現段階で最善のという位置付けで、まず、それでやってみようということが大事な

かな、そういう段階なのかなというように今話を聞きまして思いました。本年度でこれを完成し切るというものではなくて、また今回それでやってみた結果、ここはこうした方がいいなというようなものが多分出てくると思うので、そういったものを踏まえながら、よりアップデートしながら、精度を高めていくというか、そういう風に目指していくというようなものになればいいなと感じながら聞かせていただきました。

**【会長】**

ありがとうございます。何とか遊びではなくて、領域の名前、名称を入れていくというような形で大丈夫でしょうか。小学校の方はいかがですか。こちらの右側の所ですけれど、小学校の表記の仕方はいかがでしょうか。

**【委員】**

書く側としてはこれでいいのかなという気がします。お互いに書く側が書きやすいように書いて、あとは読み取る時に、多分補足が必要なのかなという気はします。

**【会長】**

先ほどご意見いただいた過程の3というところですかね。話し合いながらという所を充実させていくという所で、その話し合いを充実させるための資料としてこれを出していく、そのような認識でよろしいでしょうか。

**【オブザーバー】**

このカリキュラムの③の所は、園の展開される活動と小学校の各教科の単元構成等になっています。カリキュラムなので、そこには、小学校側は教科を入れるなどします。なので、今まで見てきた所はやっぱり各教科と生活科がちょっと多めに入れるということですが、あまりこの生活をカリキュラムの中では入れているところはないかなと思います。なので、学習と生活科は、これから話し合う中で、活動もたくさんあると思うので、もうちょっと書く枠が広い方がいいと思います。あまり多いと負担ですが、大きくカリキュラム、単元構成なので、そこは学習、生活科がメインなのかなという気がします。

**【会長】**

ということは、一番下の生活という枠が必要ないということでしょうか。

**【オブザーバー】**

お考えがあって入れているものであればですが、ただ単元なので、入れている所は見当たらないので、私も今すぐにはっきりと申し上げられませんが。

**【会長】**

いかがでしょうか。

【事務局】

話し合う中でそちらは入れたものではあって、何かを参考に入れたというわけではないです。ただ学習面も大事ですけど、生活面は結構重視されるものではないかなという思いもあり、入れました。

【委員】

これは念頭に置いているのは、例えば給食指導とか清掃とか、そういう部分というのも入っていると思ってよろしいのでしょうか。

【事務局】

そういうのもありますし、ルールのなところももちろんご指導いただいていると思いますが、幼稚園の先生から給食の時間は25分までにやらなければいけないのかと聞かれたこともあり、お互いに生活面での指導について共通理解をしきれてないところがあると思ったので、お互いやっていることを理解するためにカリキュラムの中に入れたのですが、中に入れるのがおかしいのであれば、どのようにすればよいかという所があります。

【オブザーバー】

文科省の架け橋プログラムの推進の手引きによると、③の項目はもともと単元構成のみです。やっぱり確認はしましたが、その下の配慮事項というところで家庭との連携、生活面のところを書いているというのがあります。なので、ここの単元構成の所はやはりカリキュラムなので、教育課程が入っているということですね。この左側の項目が文科省から出ているものとちょっと違います。

【会長】

では生活面は、配慮事項で書くということですか。

【オブザーバー】

配慮事項の所を枠で今くくっていますけど、それぞれが文言で書いているなどという状況です。

【委員】

今回このカリキュラムを作るにあたって一番の原因というのは、幼小の関連で、小学校での小1プロブレムがクローズアップされた中で、じゃあ5歳児、6歳児を迎えたらどうしようかというところでできてきたと思います。私どもの幼稚園だけのことで、他の園さんは関わらないことかもしれませんが、未文化のこどもを預かって最初にやるべきものは、基本的な生活習慣を確立するということです。それと小学校さんの生活習慣は、私は明確に分かりませんが、幼稚園で重視しているのはまさしくこの生活の社会性の育成、自立性の育成、言葉はちょっと違うにしても、これらが一番大事なことです。これを除いてしまうと何のために作っているのかというのが非常に分かりにくくなります。例えば小学校さんの方では、学習の評価、能力を伸ばす、幼稚園の方ではこどもの社会性を作る、これから動いていく礎を作るというところであって、そこの違いが、またこれを作っても引きずるような気がします。だから、明確に小1プロブレムを解消するためには何をしたらいいか。小学校

では学習能力を高めることを目的としています。幼稚園はそうではない、学習能力を高めるために予備軍ではないです。生活の礎を作る所という、根本的な違いがこの中に反映しないと、これを作っても意味がないのではないかというような気がします。

**【会長】**

この生活という所をこのまま生かした方がいいのではないかとということで、それをこの特徴にするということもあるかもしれないです。いかがでしょう。

**【委員】**

そうですね。小学校の方も高学年になってくると、生徒指導を加味した学習指導、学習規律、生活規律をやっぱりしっかりやっていくというようになっていくと思うんですよね。学習指導と、生活指導は切り離せないものだと思うので。校長としては両輪かなと思います。それはやっぱり知ってもらおう。礎を作ってもらったものにさらに磨きをかけているのは小学校だと思います。共通理解事項におとしこむとか、ここを大事にしていこうよというのを文章で作るというのも1つで、ここに当てはめることができないのであれば、共通理解するというのも大事だなと思います。

**【会長】**

ということで、ここには生活科の下の所に生活というのを入れたほうがいいのかということでよろしいでしょうか。オブザーバーの方は大丈夫ですか。

**【オブザーバー】**

やはり先ほども申しあげました通り、地域の実態、その自治体の特徴という意味で、これをそのまま載せて、それに向けて作成するということが良いのではないかなと思います。

**【会長】**

わかりました。ありがとうございます。この部分はそのまま残すというようなことでよろしいですか。他に何かご意見をおもちの方いらっしゃいますでしょうか。

**【委員】**

先程の話で、園側の方に生活を別に入れますか。

**【事務局】**

もしその方がよろしければ、5領域の下の所に園側にも小学校側と同じように、その枠を設けるか、書きづらいようでしたら5領域だけにしますが、どちらの方がよろしいでしょうか。

**【会長】**

いかがですか。どちらが書きやすいでしょうか。

**【委員】**

5領域でこの後やっていくということであれば、保育園の生活の中で、5領域でその遊びと生活という所、生活の面でもやっているの、あと5領域が入ればその生活の中で、私たちがこどもたちと過ごす中でここを育てていきたいというところも実際に書けるのではないかと思います。

**【会長】**

ありがとうございます。いかがですか。他に、生活というのを別に設けたほうがいいというご意見ありますか。

**【委員】**

幼稚園側はおそらく5領域の中で、生活と遊びといいますか、もう切り離すことは難しいですね。だから、一緒になっている。小学校は、そこは評価とかの対象になっていないので、もちろん文章で表現して、総合的なところでその子たちの評価をします。だから少し区別するところがありますけれども、幼稚園側が切り離すのが難しいのであれば、左側の枠としてはあって、右側の小学校側は、このように生活という所は分けられるようになると思います。なので、この形に結局おとしこむ形になるのではないかと思います。

**【会長】**

その辺の所もよく話し合いをしながら伝えていくという所であると思います。では大丈夫でしょうか。それでは左側の幼児教育の方は、健康、人間関係、環境、言葉、表現にしていくということ、それから右側の小学校の生活の所はそのまま残すということで、よろしいでしょうか。事務局においては、いただいた意見を基に修正をしていただくということで、よろしいでしょうか。

**【事務局】**

はい。

**【会長】**

ありがとうございます。では、そのようにしたいと思います。この表以外の所、手引きの全体の所でご質問、ご意見など、何かありますでしょうか。

私の方からよろしいでしょうか。3ページの②の説明の時に、窓口を明確化させるということと、周知する場を設けるというようなご説明があったかと思いますけれども、その周知する場というのは、具体的にはどのような場を想定されているのか教えていただければと思います。

**【事務局】**

それぞれおそらく研修の場などがあると思いますので、そちらをご利用いただければとは考えています。

【会長】

研修はこうやっていくというような内容でしょうか。

【事務局】

そうですね。小学校のお話しかできないんですけど、小学校では、研修の時間というのは大体定期的に設けられているので、例えばその中の1回をこの内容にさせていただくとか、そういう形でできると考えております。

【会長】

幼児教育側も、園内の研修においてというようなイメージですか。

【事務局】

はい。

【会長】

園内の研修においてこういう研修も入れて欲しいというような要望を出すということでしょうか。

【事務局】

そうですね。必ずだとなかなか難しいところもあると思うので、一応望ましいという感じにさせていただこうかと考えております。ただ、せめてその担当になった方が次の方に必ず引き継ぐとか、そういったことはしていただければと思っております。

【会長】

立場を越えてみんなで2年間を充実させていこうという所があるので、園は園の職員全員で、小学校は小学校の職員全員でというような取り組みの姿勢があるのではないかなということですね。

他にご質問、ご意見ございますか。

それでは議題の方は終わりにしても大丈夫でしょうか。この12ページの案を修正していただくということでよろしくお願いいたします。



～議事② 市内幼保小の組み合わせについて～

【会長】

それでは議事の２、市内の幼保小の組み合わせについての説明をお願いいたします。

【事務局】

(資料４に基づいて説明)

【会長】

ありがとうございました。今、事務局より説明のあった件でご意見、ご質問はありますか。

このまま原案通りということではよろしいでしょうか。それではその下、幼保小の組み合わせについてはご承認いただいたということで、よろしければ拍手をお願いいたします。

ありがとうございました。

～議事③ 次年度の取組について～

【会長】

それでは次の議事に移ります。議事の３、次年度の取り組みについて、事務局の説明をお願いいたします。

【事務局】

(資料５に基づいて説明)

【会長】

ありがとうございました。ただいま事務局より説明のあった件で、ご意見ご質問等はございますか。

６月と１月の研修会の時に、具体的な作業をするというようなイメージでよろしいでしょうか。

【事務局】

６月の時に、手引きの紹介をさせていただいて、あとお願いしますというのはなかなか難しいと思うので、少し作業する時間を取るつもりではいますが、すべて作るとなるとまた時間もかかってしまうと思います。なので、皆さんには申し訳ありませんが、先ほどご承認いただいた組み合わせごとに話し合いを進めていただいて、１月の時にはできあがったものをいただくというように考えています。

【会長】

そのようなイメージということです。他に何かございますか。

オブザーバーからご意見がありましたらお願いしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

#### 【オブザーバー】

1月の合同研修会ですが、非常に最後の話し合いの時間が、すごいいい雰囲気だなと思いながら見させていただきました。やはりああいう場を定期的に設けて、かつ、学区ごとにそれを重ねていくというのがまず重要なのかなと思うので、その1回目ですとか、そういったところで、そういう場の設定を促すというか、そういう話をしていく必要があるのかなと思います。それで、ある特定の人たちの問題というよりも、全体でその地域のこどもたちをどのように育てていく、いけるのかというような視点で考えていけるのかなと思いました。私調査研究担当しておりまして、アンケートの結果を報告させていただきましたが、まだやはりそういう2つの点では、まだ色々考えていかなければいけないというのがありますので、そういったところをぜひしていただけたらなと思います。

#### 【会長】

ありがとうございます。6月の時にこういう案を示した上で窓口を明確化して、オンラインで行うのか、対面で行うのかあたりを決めていただいてというような、そういう流れになろうかと思います。何かご意見ありますか。何となくイメージは掴めたでしょうか。

皆さん大丈夫でしょうか。次年度の取り組みについてはご承認いただいたということでよろしいでしょうか。よろしければ拍手をお願いいたします。

ありがとうございます。それでは予定されていた議事はこれで終わりました。

これで本日の議事は終了いたします。ありがとうございました